

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すぴーる		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日(火) ～ 2025年 11月 21日(金)		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 25日(火) ～ 2025年 12月 1日(月)		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 4日(木)		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同伴での療育であること	療育中にお子さんの様子についての解説やアドバイスを実施すること  療育時間中であればいつでも保護者が職員と話ができるよう随時相談を受けられる職員体制を整えている  集団療育中に保護者同士の交流や意見交換ができるような場を設定している  就学先について、就学後の進路についての説明を早い段階(年少～年中児)から保護者に説明している	今後も現在の支援を継続して実施していけるよう職員配置の見直しなどを随時行うようにしていく  就学指導の情報や、就学後の地域の小学校の情報などを積極的に職員間で収集し、保護者に提供していく
2	職員全員が個別・集団療育においてリーダー・サブリーダーの役割を果たすことができること	朝昼2回の打ち合わせ以外にも日頃から職員間で支援についての意見交換や助言などを行うことで、職員ひとりひとりが意識的にお子さんに関われるよう努めている  その日の療育内容について職員同士で意見を出し合い、次の療育内容をどうするか意見交換を実施している。	個別療育プログラムは複数の職員の意見を取り入れながら決める、集団療育での設定遊びは担当職員を持ち回りにすることで支援内容のマンネリ化を防ぐとともに各職員がお子さんひとりひとりに合わせた支援を考える機会を設けていく
3	働きやすい職場環境であること	1日の仕事のスケジュール(療育業務、記録・事務業務、翌日以降の療育準備時間等)が各職員ごとに決められているため、見通しを持って仕事ができ、日々の残業がない。  個別担当制ではなく複数職員で療育を実施するため一人で悩まず相談しながら支援内容を考え、実施することができる。	今後も職員の意見を聞きながら随時職場環境の見直しを実施していく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流が少ない	集団療育に参加している保護者に関しては、集団療育時間中に保護者同士で交流する機会もあるが、個別療育しか利用していない保護者は他の保護者と交流する機会がない	個別療育のみの保護者に対しても、保護者からの希望があった場合には保護者同士での交流ができる場の設定を行えるよう努めていく